

2009年度(平成22年3月期)第1四半期決算説明会 質疑応答 (要旨)

📅 日時: 2009年8月7日(金) 16:30~17:30

📍 会場: 経団連会館「国際会議場」

以下は、2009年8月7日に実施いたしました2009年度(平成22年3月期)第1四半期決算説明会における質疑応答の模様(概要)を取りまとめたものです。

Q1. 5月半ば頃に発生した新型インフルエンザの第1四半期における影響を教えてください。

A1. 新型インフルエンザによる収入減は、国際線旅客・国内線旅客合計で△200億円と試算しています。

Q2. 第2四半期での国際線旅客・国内線旅客の収入未達額は、第1四半期とほぼ同額の未達を想定していることですが、現時点での7月~9月の予約状況や足元の単価傾向を反映した上での見通しなのでしょうか？ 足元の予約状況からすると、第2四半期の収入未達が第1四半期と同水準との見通しはやや弱気ではありませんか？

A2. 第2四半期の収入見通しは、第1四半期、足元の需要動向や単価傾向を反映したものです。第1四半期の新型インフルエンザの影響が5月後半から大きくなってきた一方で、第2四半期前半までその影響が若干残ることを勘案すると、第2四半期の国際線旅客・国内線旅客の収入未達額が第1四半期と同水準と見込んで弱気すぎることはないと考えています。

Q3. 新型インフルエンザの影響があった第1四半期での収入未達や第2四半期の足元の需要動向、また第1四半期の費用面での見通し対比等を踏まえて、今後の営業利益の見通しを解説してください。

A3. 収入面では、回復傾向の見られる国際線貨物を除き、上述のとおり、第1四半期での国際線旅客・国内線旅客の収入未達額が第2四半期でもほぼ同水準となる見通しです。一方、費用面では第1四半期で想定以上のコスト削減が進みましたが、第2四半期以降もこの費用減の傾向が継続すると想定しているほか、8月7日までに発表した追加的な路線便数計画見直しによる収支改善効果が△50億円見込めるため、2009年度の営業利益は当初の想定通りと見込んでいます。

Q4. 第1四半期では、コスト削減が想定以上に進んだとのことですが、その内容について説明していただけませんか？ また、第2四半期以降もその効果が継続する内容があれば教えてください。

A4. 第1四半期では、様々な費目の細かい積み上げにより、想定以上のコスト削減が実行できました。効果の大きい項目としては、燃油費が挙げられます。既に実施済みの燃油ヘッジにより効果は限定的ですが、第1四半期でのシンガポールケロシンと原油の市況実績が期初想定を下回ったほか、燃油消費量削減の継続的な取り組みの効果もあり、燃油費が想定を下回りました。人件費についても、人的生産性の向上等から想定を下回りました。また、一般管理費・販売促進費等のその他費用についても、コスト削減の更なる徹底

で想定以上に減少しており、これらのコスト削減については、第2四半期以降においても継続的な効果が見込めます。

Q5. 現在の燃油ヘッジ率が2008年度期末決算時点から変わっていませんが、今後、足元の燃油価格水準でヘッジを進めていくとの考えはお持ちでしょうか？

A5. 燃油ヘッジ方針については、現在策定中である次期中期経営計画での見直しを検討しています。燃油サーチャージ制度の無い国内線旅客では基本的に燃油ヘッジが必要ですが、今回発表いたしました路線便数計画見直しによる供給減や、次期中期経営計画で検討中の更なる供給体制の見直しに伴い燃油消費量が大幅に減少するため、ヘッジを進めなくても自然にヘッジ比率が高まってしまいます。このような状況を踏まえ、今後、適切な燃油ヘッジ比率を決めていきたいと考えています。

Q6. 営業外損益について、第1四半期に計画対比で改善している内容があれば教えてください。

A6. 営業外損益では、米ドル円為替レートの当初想定95.0円に対し、第1四半期での実績が97.1円と若干円安方向に振れたため、為替差損が縮小しました。

Q7. 2009年度の特別利益に織り込んでいる企業年金制度改革について、現在の進捗状況を教えてください。

A7. 6月中旬以降、退職者を対象として年金制度改定の必要性に関する説明会等を行ってきましたが、今後は、具体的な改定内容が確定次第、改めて制度案を提示したうえで、会社の置かれた現状や将来像を含め再度真摯な説明を行う予定です。丁寧な説明を重ねることで、最終的には社員、退職者双方から理解を得られると考えており、今年度中に厚生労働省へ申請のうえ認可をいただけるよう、最大限の努力を尽くす所存です。

Q8. 6月末に契約を締結した1,000億円の融資について、実行状況を教えてください。また、2009年度には約2,000億円の資金調達が必要とのことでしたが、今後の資金調達に関する考え方を教えてください。

A8. 2009年6月末に総額約1,000億円の融資契約を締結し、第1四半期では約600億円の借入を行いました。残額については、7月～8月に借入を行う予定です。下期以降については、今後の収入動向やコスト削減等の状況を見極めつつ、必要な資金を必要な時期にしっかりと調達していく考えです。

以 上